

## 1. 講師紹介



### 太田 述正

略歴: 1971 防衛庁入庁。(守屋元防衛事務次官と同期)  
1974~76 米国スタンフォード大学留学。経営学修士、政治学修士取得  
1982 白書室長(昭和57年防衛白書編纂)  
1988 英国国防大学留学  
1998 防衛庁長官官房防衛審議官  
1999 仙台防衛施設局長  
2001 依願退職  
2001 参議院選挙(比例区)に民主党から立候補し、二万四千票で落選

「天下りは諸悪の根源である」という持論に基づき、天下りすることなく、国際時事評論家としてコラムの執筆を中心に活動中

専門: 比較政治論、国際安全保障論

主要著書: 属国の防衛革命 (2008年9月光人社)  
実名告発防衛省 (2008年10月金曜日社)

URL: <http://www.ohtan.net/>

BLOG: <http://blog.ohtan.net/>

趣味: クラシック

## 2. 安全保障専門家の視点(1/2)

- 政治、官僚機構、官需依存の大きい企業の三位一体の癒着構造は、吉田ドクトリンを墨守し続けてきたことに対する当然の論理的帰結である

もともと顕著である防衛省/自衛隊を例にすると。。。

自らの意思で、日本は、「外交、防衛を米国に依存し、経済に専念する(吉田ドクトリン)」を戦後65年間の国家戦略としてきた

**自衛隊は軍隊もどきの警察**  
 ・軍法会議・軍律法廷等機能の欠如  
 ・ポジリストによって活動規制

Note:

- ・ポジリスト: やってよいことを定義  
→これしかできない
- ・ネガリスト: やってはいけないことを定義  
→これ以外は何でもできる

**冷戦時代を含め、直接侵略の脅威は存在しない**

- ・四囲が海
  - ・日米安全保障条約の存在
  - ・在韓米軍、韓国軍の存在
- なお、
- ・核の脅威は米国の核抑止力に依存
  - ・テロの脅威は警察力で対応すべきもの

国家戦略  
吉田ドクトリン

存在の否定

海外軍隊  
行動不可

防衛省  
自衛隊

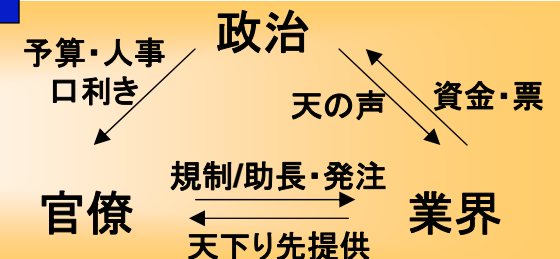
必要性無し

日本の  
安全保障状況

腐敗・癒着は当然の帰結

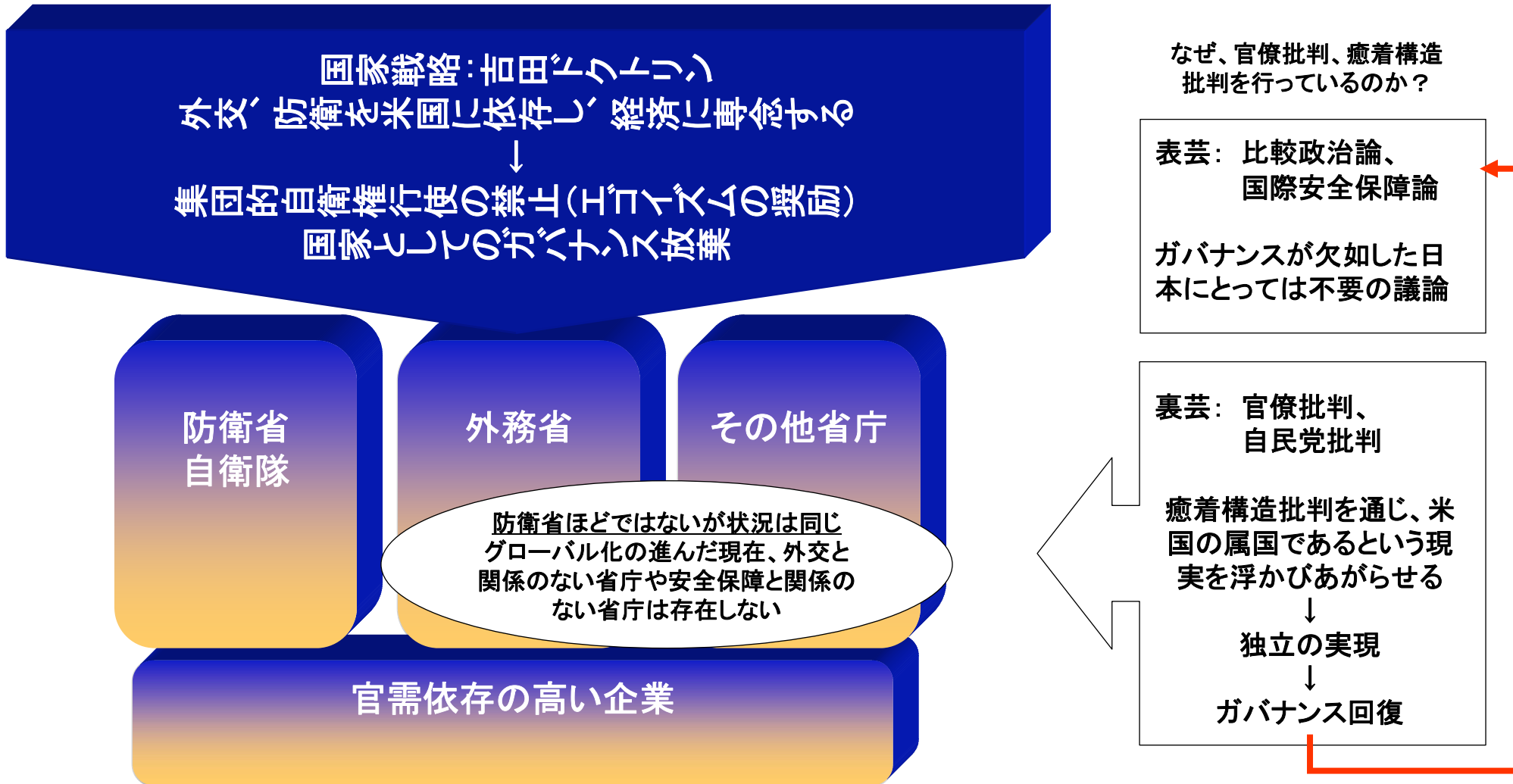
自衛隊は軍隊として何もできないし、やるべきこともないという状態

官僚は自己の生涯利益最大化だけが関心事



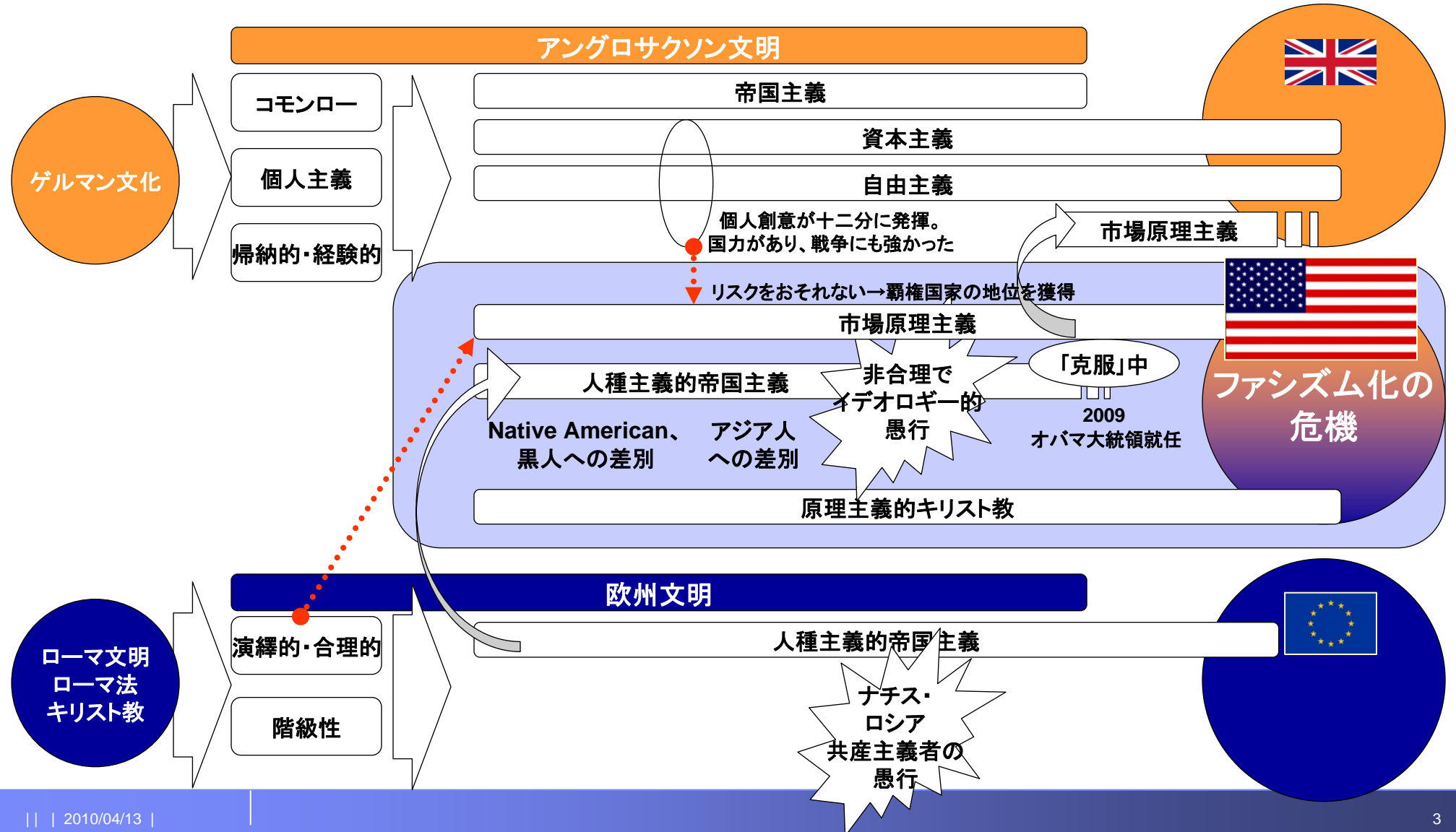
## 2. 安全保障専門家の視点(2/2)

- 退廃・腐敗は、全省庁、政府依存度の高い全企業へと蔓延していった



## 2. 米国論

- 米国は、アングロサクソンを主、欧州を従とするキメラである



### 3. 日本は米国の属国(1/3)

- 日本の状況は、宗主国(米国)の保護国あるいは属国状態である

#### 保護国 (Protectorate)

主権国家<等の>…政治的存在 (political entity) が、宗主国 (protector) と称されるより強い国家と公式に条約によって不平等な関係を取り結び、この宗主国が外交的にあるいは必要に応じ軍事的に、この政治的存在を第三国等から守ることを約束し、その見返りとして、この政治的存在が宗主国に対し、両国の関係の実態に応じ大いに異なるところの、特定の諸義務を通常負うものを指す

<http://en.wikipedia.org/wiki/Protectorate>

#### 属国 (Dependency)

国家として完全なる政治的独立あるいは主権を認められていない領域を指す

[http://en.wikipedia.org/wiki/Dependent\\_territory](http://en.wikipedia.org/wiki/Dependent_territory)

### 3. 日本は米国の属国(2/3)

- 日本の状況は、宗主国(米国)の保護国あるいは属国状態である

#### 保護国 (Protectorate)

主権国家<等の>…政治的存在 (political entity) (日本)が、宗主国 (protector) と称されるより強い国家 (米国) と公式に日米安保条約によって不平等な関係を取り結び、米国が外交的にあるいは必要に応じ軍事的に、日本を第三国等から守ることを約束し、その見返りとして、日本が米国に対し、両国の関係の実態に応じ大いに異なるところの、特定の諸義務を通常負うものを指す

<http://en.wikipedia.org/wiki/Protectorate>

#### 属国 (Dependency)

国家として完全なる政治的独立あるいは主権を認められていない領域を指す

[http://en.wikipedia.org/wiki/Dependent\\_territory](http://en.wikipedia.org/wiki/Dependent_territory)

← 保護国を日本、宗主国を米国、条約を日米安保条約と読み替えば、現在の日本が置かれている状況にぴったりであることがわかる

### 3. 日本は米国の属国(2/3)

- 不平等な関係に基づいて、宗主国(米国)がいかに日本から搾取されているか、下記にその一例をあげる

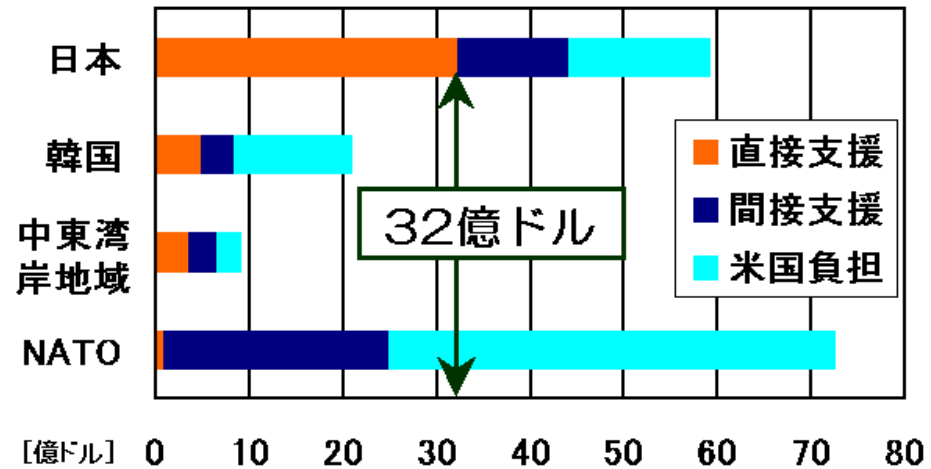


- 首都圏の航空管制権は、ほぼ米軍の管理下
- 東京通勤圏内に、在日米軍司令部、陸軍司令部、海軍司令部、空軍司令部が存在

※ロンドン圏、ベルリン圏には米軍基地なし。ソウルでさえ、移転決定済。

※この点においては、実は日本はまだ占領下にあると言える

米軍の各地域における駐留費用の各国負担分担状況



[http://wiki.livedoor.jp/veg\\_tan/d/%bb%d7%a4%a4%a4%e4%a4%ea%cd%bd%bb%bb](http://wiki.livedoor.jp/veg_tan/d/%bb%d7%a4%a4%a4%e4%a4%ea%cd%bd%bb%bb)

- 間接支援も含めると、日本は米軍駐留費の75%負担している勘定となる(他同盟国と比し、占める割合、総額ともども突出)
- 米軍基地における正規日本人労働者のほか米軍基地内の独立採算制のハンバーガー店等の日本人労働者の給料まで負担。その結果、米軍は減っているのに、基地労働者はどんどん増えている

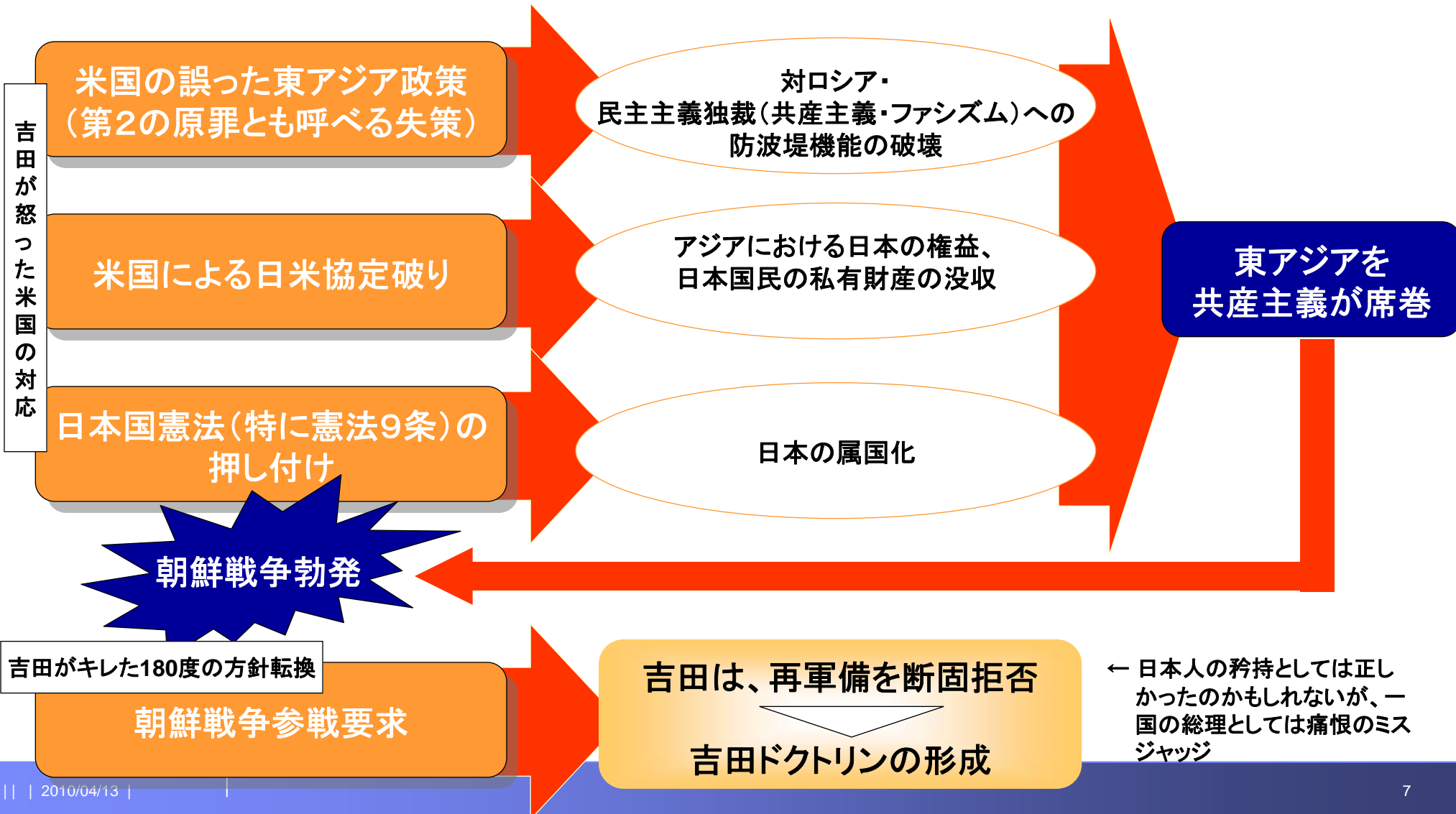
1978年度 米軍45,939人、日本人21,017人

2006年度 米軍33,453人(27%減)、日本人25,403人(21%増)

米軍100人あたり76人(なお韓 同47人、伊 同43人、独 同31人)

## 4. 吉田の怒り

- 米国の愚行、国際法に違反した対応に我を忘れた吉田は、再軍備のチャンスを逃してしまった





## 5. 日本の選択肢

- このまま、属国日本のままでいるか、米国から独立した上で自由主義陣営のリーダーの一つとして世界から尊敬を得られる国を目指すか、国民が決断すべきとき

### 選択肢2 米国からの独立

(独立国家日本の進むべき道) アングロサクソン諸国と連携し、米国を善導し、強固な自由主義陣営を構築する

世界の  
安定と繁栄を実現

自由民主主義

※アングロサクソンと人間主義の日本は共通点が多く親和性が高い

アングロサクソン文明

個人主義社会

自由主義 / 資本主義

欧州文明

階級社会

全体主義

市場原理主義  
人種主義的帝国主義

ファシズム化  
の危機

奴隷  
根性

人間主義

選択肢1 吉田ドクトリンの継続

ファシズムの台頭？